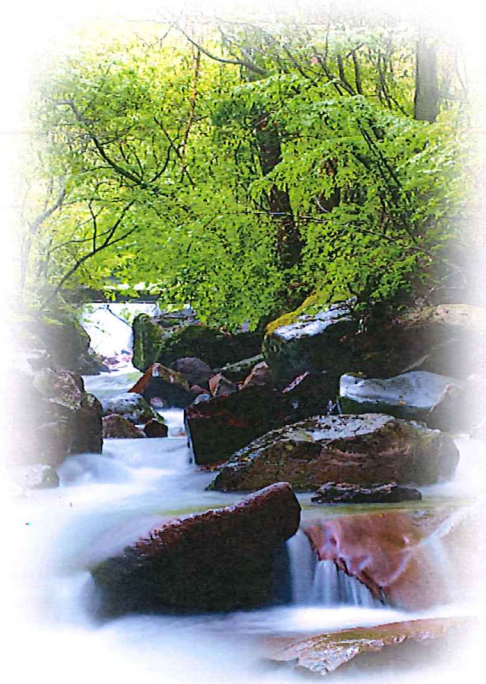


エコアクション21

環境活動レポート

2017. 6. 1~2018. 5. 31



2018年6月20日作成

株式会社 鹿 熊 組



目 次

1. 環境方針
2. 事業内容
 - 1) 事業所名及び代表者名
 - 2) 所在地
 - 3) 環境管理責任者及び担当者
 - 4) 事業内容
 - 5) 事業規模
3. 活動組織
4. 環境目標
5. 環境活動の取組結果と評価
 - 1) 環境活動の取組結果
 - 2) 環境活動の取組結果の評価
6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
7. 代表者の評価と見直し

1. 環境方針

【環境に対する基本理念】

当社の経営姿勢は常に堅実性に重点をおき、誠実・情熱・技術の三本の柱で様々なお客様のご要望にお応えすることをめざしてまいりました。

当社が長年にわたり蓄積してきた技術力を活かし、三本の柱の元で、環境負荷の発生を可能な限り軽減して、自然環境の維持・改善・向上・保護を目的とした持続的活動を行うことにより人類共通の課題である環境問題に取り組んでまいります。

【環境方針】

- ① 省エネルギーに努めて、温室効果ガスの発生を可能な限り抑制いたします。
- ② 当社の事業活動に伴い発生する産業廃棄物及び建設副産物の発生抑制・削減・リサイクルに取り組めます。
- ③ 環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
- ④ 事務用品のグリーン購入への取り組みを行います。
- ⑤ 節水に心がけ水資源の有効活用を行います。
- ⑥ 環境関係法規制を遵守します。

これらについて環境目標・活動計画を定め、全従業員に周知し実行します。定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めてまいります。

2011年4月20日

長野県長野市大字鶴賀緑町
1631番地3号

株式会社 鹿熊組

代表取締役社長 鹿熊 厚

2. 事業内容

1) 事業所名及び代表者名

株式会社 鹿熊組
代表取締役社長 鹿熊 厚

2) 所在地

本 社 長野県長野市大字鶴賀緑町1631番地3号
機材センター 長野県長野市真島町川合北宮島2036番地

3) 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者	専務	鹿熊 聡
環境管理担当者	管理部	鹿熊 聡
	土木部	大谷章彦
	建築部	神田知徳
環境管理事務局		新井重隆
連絡先	TEL	026-235-3311
	FAX	026-235-3315
	HP	http://www.kakumagumi.com
	E-mail	info@kakumagumi.com

4) 事業内容

総合建設業 許可番号 長野県知事 許可(特-26)第22710号

建設業の種類
土木、大工、石、管、鋼構造物、しゅんせつ、
防水、造園、建築、とび・土工、屋根、
タイル・れんが・ブロック、舗装、塗装、
内装仕上、水道施設工事業

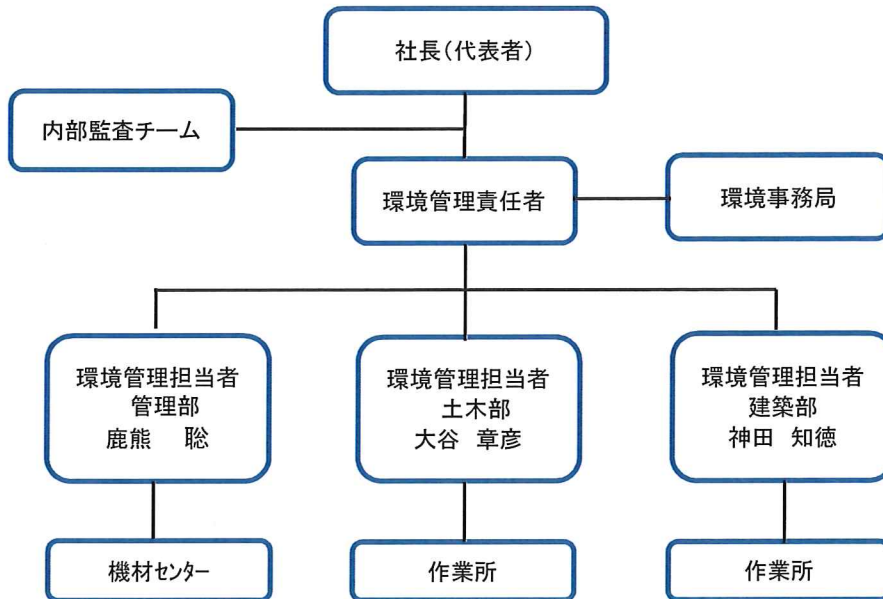
5) 事業規模

完成工事高

55期	3,683百万円	(2013年6月1日~2014年5月31日)
56期	3,599百万円	(2014年6月1日~2015年5月31日)
57期	3,709百万円	(2015年6月1日~2016年5月31日)
58期	3,494百万円	(2016年6月1日~2017年5月31日)
59期	5,220百万円	(2017年6月1日~2018年5月31日)

従業員数	82人
本社床面積	1132.1m ²
機材以外-床面積	5963.6m ²

3. 活動組織



責任者	役割・責任・権限
社長（代表者）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者・部門担当者を任命 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境目標・環境活動計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理、 環境関連法規等の取りまとめ票を承認 環境目標・環境活動計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告・ 環境活動レポートの確認 環境事務局の設立、担当者の任命
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境目標、環境活動計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
環境管理担当者 (部門長)	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの計画・実施 自部門における環境方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 特定された項目の手順書作成及び運用管理 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 教育、訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施 環境活動の内部コミュニケーションの実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 環境活動の具体策の提案、活動状況の定期報告 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

4. 環境目標

2016年(58期)の実績値を基準値とし、2017年の1年間の目標値、環境活動計画及び具体的施策を下表の通り策定した。

	目標値	活動計画・施策
省エネルギー化	電力の削減	1. 空調温度の適正化・熱の出入りの調整 2. 時間帯消灯・機器電源OFF(昼休憩・外出時等) 3. 時間帯消灯・機器電源OFF(休日・夜間) 4. 効率化による残業・休日出勤削減 5. 空間利用(在室人員のまとまり)の工夫 6. 省電設定、省電機器の導入の追加検討 7. 社内ルールの遵守(制限・約束)
	基準年度実績	210,892 kWh
	2016	109,242 kg-CO2 使用する二酸化炭素排出係数; 0.518
	2017年度目標	基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 108,696 kg-CO2
	※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有	中期計画 1. 前年手段の継続・改善 2. 前年検討事項の実施への取組 3. 社員行動の不良部の改善 4. 残業・休日出勤の削減 5. 更なる向上のための手順改善 6. 社内ルールの遵守
	2018年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2019年度目標 前年比-0.5% 98.5%	
省エネルギー化	燃料の削減	(通勤・移動車両) 1. エコドライブの導入 2. 日常点検の励行 3. 相乗りの推進 4. 運行経路の適正化 5. 省エネ車両への交換 (重機械) 1. アイドリング時間の短縮 2. 休憩時間のエンジンストップ 3. 過剰負荷の軽減(輸送) 1. 共積みの励行 2. 配送経路の適正化・集約化(設備) 1. 定期点検の励行
	基準年度実績	ガンリン 90,080 ℓ 軽油 118,593 ℓ 灯油 34,594 ℓ 年 601,020 Kg-CO2
	2017年度目標	基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 598,015 Kg-CO2
	2018年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2019年度目標 前年比-0.5% 98.5%	※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有
	2018年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2019年度目標 前年比-0.5% 98.5%	中期計画 1. 前年手段の継続・改善 2. 重点事項の推進 (重点事項) ・エコドライブの励行 ・省エネ車両への交換の推進 ・関係会社の協力による適正機械の使用促進 ・作業手順の適正化による過剰負荷の軽減 ・作業所間調整による運行経路の適正化による走行距離の短縮 ・省エネルギー型機器の導入の可能性の検討
廃棄物排出量削減	一般廃棄物の削減	(全般) 1. 分別の徹底・混合廃棄物の削減 2. 分別ボックス・スペースの確保 3. 周知・徹底 (減量) 1. ペーパーレス化の促進 2. 書類の簡素化の推進 3. 両面コピーの促進 4. ミスコピー・ミス印刷の減量
	基準年度実績	2016 6,160 kg
	2017年度目標	基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 6,129 kg
	2018年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2019年度目標 前年比-0.5% 98.5%	※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有
	2018年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2019年度目標 前年比-0.5% 98.5%	中期計画 1. 前年手段の継続 2. 重点事項の推進 (重点) ・不良者の発見と指導 ・周知・徹底 ・整理整頓 ・工夫及び意識改革 ・手順の改善(社内資料) ・保管書類の削減(保管基準、保管方法)
	産業廃棄物の削減・リサイクル化	(全般) 1. 分別の徹底・混合廃棄物の削減 2. 分別ボックス・スペースの確保 3. 周知・徹底 (リサイクル促進) 1. 意識の高揚 2. 廃棄物に関する知識の向上
	基準年度実績	2016 8,161.86 t 0.33%
	2017年度目標	基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 8,121.05 t
	2018年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2019年度目標 前年比-0.5% 98.5%	※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有
	2018年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2019年度目標 前年比-0.5% 98.5%	中期計画 1. 前年手段の継続 (全般) 2. 分別ボックス・スペースの必要な改善 3. 周知・徹底のための再教育 (リサイクル促進) 1. 意識の高揚のための再教育
水資源使用量削減	水道水の削減	(本社) 1. 自動給水装置の水量調整 2. 節水の励行の周知・徹底のための社員教育(作業所・機材) 1. 用水利用の促進 2. 雨水利用の促進
	基準年度実績	2016 1,804.2 m ³
	2017年度目標	基準年度比 98% 削減率 -2% 目標値 1,768.15 m ³
	2018年度目標 前年比-2.0% 96% 2019年度目標 前年比-2.0% 94%	※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有
	2018年度目標 前年比-2.0% 96% 2019年度目標 前年比-2.0% 94%	中期計画 1. 前年度の継続 (作業所) 1. 洗車回数の制限 2. 循環型の導入等による再利用の促進
環境配慮資材購入	事務用品のグリーン購入	1. 優先購入決定品の維持 2. 白色を落とした紙類の購入→減量へ移行 3. 優先購入対象品目の増加
	2016年度目標	購入品設定品目の維持
	2017年度目標	今年度実績により 設
	2018年度目標	定変更
	2016年度目標 購入品設定品目の維持 2017年度目標 今年度実績により 設 2018年度目標 定変更	中期計画 1. 前年手段の継続・改善

	目標値	活動計画・施策	
製品への環境配慮	環境配慮型建設材料、工法の提案・実施	1. 設計、見積案件においての、環境配慮型材料・工法・設備の提案のための基準作成	
	基準年度実績	2. 上記について提案の実施	
	2015	3. 熱意を持った働きかけ	
		4. 官庁工事(環境配慮)創意工夫・ボランティア活動等の実施	
	2016 年度目標	官庁工事創意工夫 ＝提案実施50%	
	※設定目標値については年度ごとの受注高により変動有	中期計画	
	2016 年度目標	今年度実績により 設定	前年手段の継続・改善
	2017 年度目標	変更	

5. 環境活動の取組結果と評価

1) 環境活動の取組結果

(注意：59期目標及び実績は12ヶ月経過の2018年5月末日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	58期実績	59期目標	59期実績	対目標比率	評価
電力の削減	本社・機材	使用量	kwh	92,378	146,308	84,302	57.6%	◎
		CO2換算値	kg-CO2	47,852	75,787	43,668		
	作業所	使用量	kwh	118,514	186,977	130,542	69.8%	◎
		CO2換算値	kg-CO2	61,390	96,854	67,621		
	合計	CO2換算値	kg-CO2	109,242	172,641	111,289	64.5%	◎

(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)

(注意：59期目標及び実績は12ヶ月経過の2018年5月末日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	58期実績	59期目標	59期実績	対目標比率	評価	
燃料の削減(1)	ガソリン	本社・機材	使用量	リットル	75,357	119,594	78,573	65.7%	◎
			CO2換算値	kg-CO2	174,954	277,656	182,421		
		作業所	使用量	リットル	10,382	16,779	10,949	65.3%	◎
			CO2換算値	kg-CO2	24,102	38,956	25,420		
	合計	CO2換算値	kg-CO2	199,056	316,612	207,840	65.6%	◎	
	軽油	本社・機材	使用量	リットル	22,310	35,073	20,565	58.6%	◎
			CO2換算値	kg-CO2	58,549	92,043	53,969		
		作業所	使用量	リットル	113,644	177,653	133,497	75.1%	◎
			CO2換算値	kg-CO2	298,241	466,223	350,341		
	合計	CO2換算値	kg-CO2	356,790	558,266	404,310	72.4%	◎	
	灯油	本社・機材	使用量	リットル	2,591	4,178	1,852	44.3%	◎
			CO2換算値	kg-CO2	6,457	10,412	4,615		
		作業所	使用量	リットル	21,482	33,194	18,797	56.6%	◎
			CO2換算値	kg-CO2	53,531	82,718	46,840		
合計	CO2換算値	kg-CO2	59,988	93,129	51,455	55.3%	◎		
燃料の削減(2)	都市ガス	使用量	m3	14,381	22,736	13,618	59.9%	◎	
		CO2換算値	kg-CO2	30,321	47,936	28,713			

(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)

(注意：59期目標及び実績は12ヶ月経過の2018年5月末日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	58期実績	59期目標	59期実績	対目標比率	評価	
CO2排出量の削減	本社・機材	CO2換算値	kg-CO2	318,133	503,835	313,386	62.2%	◎	
		作業所	CO2換算値	kg-CO2	437,265	684,751	490,222	71.6%	◎
		合計	CO2換算値	kg-CO2	755,398	1,188,585	803,608	67.6%	◎

(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)

(注意：59期目標及び実績は12ヶ月経過の2018年5月末日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	58期実績	59期目標	59期実績	対目標比率	評価
水使用量の削減	水道・下水	使用量	m3	735	1,065	665	62.4%	◎
		作業所	使用量	m3	919	1,327	641	48.3%
	合計	使用量	m3	1,654	2,392	1,306	54.6%	◎

(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)

(注意：59期目標及び実績は12ヶ月経過の2018年5月末日現在値)

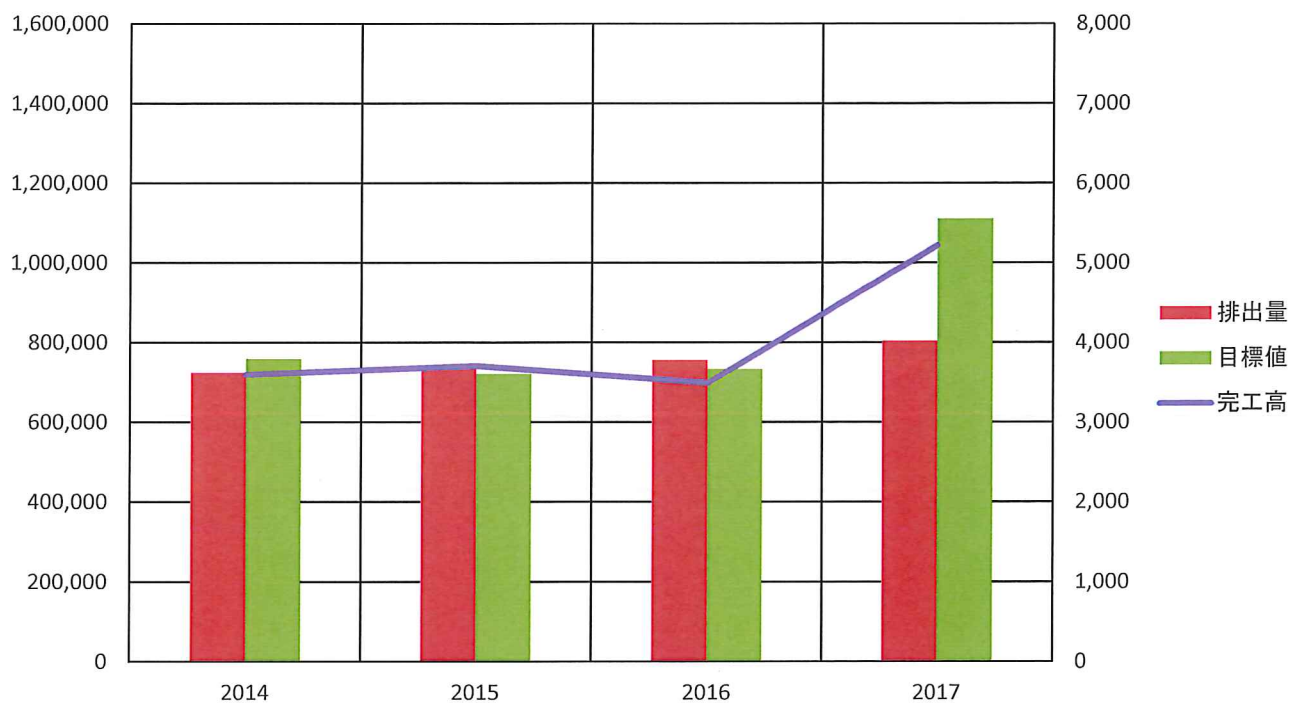
項目	区分	管理種別	単位	58期実績	59期目標	59期実績	対目標比率	評価	
廃棄物排出量の削減	一般廃棄物	北用紙	使用量	kg	6,160	9,695	5,632	58.1%	◎
		全体量	t	8,006	8,162	4,141	50.7%	◎	
	産業廃棄物	再生不可率	%	0.33%	0.33%	0.96%	293.4%	×	

(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)

CO2排出量の推移

年度	2014	2015	2016	2017	単位
排出量	724,007	736,346	755,398	803,608	kg-CO2
目標値	758,179	720,480	732,664	1,109,726	kg-CO2
完工高	3,599	3,709	3,494	5,220	百万円

二酸化炭素排出量



2) 環境活動の取組結果の評価

1. 省エネルギー化 (CO₂排出量の削減)

項目	区分	数値評価	活動評価
電力	本社・機材	目標値-42.4%◎	本社各部署の電気設備の見直しによるハード面の効果と考えられる。 また、各部署単位の業務の効率化、時短に努めたことによることも、減量となった要因と捉えることが出来る。
	作業所	目標値-30.2%◎	建設業全般に見られる超過労働時間の短縮が当社の課題となっていた。現場での適正な職務分担による働き方改革を進めることが今後も重要である。 現場の仮設電源を細分化する事、最小限の期間での設置等による工夫も減量に効果があったのではないかと考える。
ガソリン	本社・機材	目標値-34.3%◎	今期は大幅な減量となった。要因と考えられるのは、長期に渡り続いた佐久方面の中部横断道開連工事が落ち着いたことによる、使用総量の減量によるものと考えられる。 当社の保有車両台数は例年同様の代数であり、その内容も大きな変化は見られていないことから、来期のガソリン使用量が今後の指標となると考えられる。 エコドライブ、燃料効率の良い車両の導入、相乗りの推奨等による減量に努めることは今後も必要であると共に、顧客要望に対応しながら、施工高の平準化を引き続き目指すこと、集中を回避する段取りを心がけること、十分な工期を確保すること等が、間接的ではあるが総走行距離の削減に大きな影響を与えていると考えている。
	作業所	目標値-34.7%◎	作業所専用車両が減ったことが要因と思われる。 車両についてはエコドライブに加え、軽車両等燃費率のよい車種の採用、作業所機器等についてはエコタイプ仕様の選択等による削減努力を継続していきたい。
軽油	本社・機材	目標値-41.4%◎	輸送作業が主な使用目的である。車両は変更していない。輸送分野においては現場への資材運搬時の相積みや、適切な運行経路の選定による削減ができていた。日々の点検整備、積載重量超過等に引き続き気を付け、削減努力を継続していく。 佐久方面の作業所への長距離運搬移動が減ったことによる減量が最大の要因と考えられる。
	作業所	目標値-24.9%◎	請負工事の種類による変動と考える。建設重機・小機械等の稼働の増減が数値に現われている。機械の省エネ化については、当社だけでなく下請け業者を含め、省エネ型の機械導入に努めておりその影響は大きく出ているものと推測できる。 暖気運転の時間短縮及びこまめなエンジンカット、使用者への教育等により削減努力、省エネ機器の導入・利用については協力を通じ、引き続きお願いしていく予定である。
灯油	本社・機材	目標値-55.7%◎	本社での使用量が減量となっている。こまめな暖房機器の調節を実施した結果と考えられる。建築・土木の事務所稼働時間が超過労働時間の短縮を目指すことにより、大きく改善されと思う。
	作業所	目標値-43.4%◎	施工現場の事務所の数によるものが大きく影響したと考えられる。受注量に左右される為、冬期の暖房、コンクリートの養生用ヒーター等に効率的なものを引き続き選択し、使用することにより今後も減量につなげたい。
都市ガス	本社・機材	目標値-40.1%◎	冷暖房に使用している。未使用空間での冷暖房運転の削減等による改善が図られている。気候に左右された点が多いとは思いますが、設定温度の適正化や無駄な運転の削減を効率的に行う空間利用方法徹底を継続していきたい。 省エネ機器の導入・既存機器の整備点検についても順次進めている。
まとめ 省エネルギー化については、本年度は大変優秀な結果となった。長距離通勤・輸送が減少したことも大きな要因ではあるが、働き方改革による時間の効率的利用、個々の節減意識の高まりも、この結果の容易であろうと考える。 来期以降については、遠距離現場が減少する為、更なる減量となり得る。その結果は、今後の指標としていく事となる。当社の所有機械・設備の定期的な点検、新規購入、社有車の燃料効率の良い車種への変更を今後も進めると共に、外部機関を利用して運転経験の浅い若年者への運転講習や、エコドライブ講習等への参加に因ることで、効率の良い運転技術を習得する事により、よりエコ活動を強く意識することが出来、今年度以上の良い結果を得られるのではないかと感じている。			

2. 廃棄物排出量の削減

項目	区分	数値評価	活動評価
廃棄物	一般廃棄物	(コピー用紙購入量) 目標値-41.9%◎	結果は良好であった。使用量は本社での排出量が固定的とも考えられ、現場でのペーパーレス率の向上は引き続きの課題である。 印刷時の確認、必要枚数の把握、会議資料等のペーパーレス化 (PDF等による配布) など、より積極的に実施とすることが必要と考える。
	産業廃棄物	(産業廃棄物総量) 目標値-49.7%◎ (全産業廃棄物中の混合廃棄物の割合) 目標値0.33%→結果0.96%×	結果は良好であった。しかしながらこの数値については、当社の受注内容により、大きく変化するところであり、今期の結果が今後の基準となりえるかは疑問が残る処であった。 廃棄物の総量は減少しているが、混合廃棄物については目標を大きく超過してしまった。 受注工事の完了時に排出される雑品の分別がしきれずに混合廃棄物として排出されたことが要因と考える。厳密に排出物の分別を行う必要があり、大別は各現場単位されているのですが、事務所等の撤収時の慌ただしさの中でも確実に分別を行うことが必要であり、社内での教育・訓練方法等の見直しが必要と考える。
まとめ 産業廃棄物の総量については、今後とも受注状況により変化するという現実があり、その点についての変化は今後も想定が難しい処である。しかしながら、混合廃棄物については、努力と根気による処が大きく左右する処であり、見直しの余地はあると考え可能な限りの3R活動の推進を図り、確実な分別による混合型の廃棄物の削減についてもその努力を継続する予定です。			

3. 水資源使用料の削減

項目	区分	数値評価	活動評価
水資源	本社・機材	目標値-37.6%=◎	ほぼ固定化している施設で大きな削減となった。機材センターでの使用量が大きく減ったことによるものと考えられる。物品の返却の際に現場での簡易清掃を実施してくれたことが大きな結果となった。
	作業所	目標値-51.7%=◎	散水による解体時養生等による削減が環境へ悪影響を及ぼす。工事用水は現場環境に合わせた適切な使用が求められる。節水への取組状況は良好である。現場事務所での使用量については、水道施設の有無により左右されることからはっきりとした評価はむずかしいところである。
<p>まとめ</p> <p>現場での使用水量については、受注要件により大きく左右されるが、用水等を散水、練混ぜ水として使用する事、排水時には適切な処理の実施による循環を心がけ水道水の使用量を引き続き減量できるよう努力を期待している。</p>			

4. グリーン購入

<p>コピー用紙のグリーン購入化については経費の面で取り組みができない状態である。ペーパーレス化をさらに進め、使用量の削減についての努力は継続していきたい。使用量の多い紙類と共に、日頃から購入頻度の高い物品に関して、社内グリーン購入推奨品目と位置づけ、購入時には積極的に選択している。また、現場購入品についてもグリーン購入品目を優先できるものについては、積極的に選択して購入していくよう指導している。しかしながらこれには、経費も通常商品を購入するよりも、高いことが分かっており、当社としては全量を変更していくことには、経費的に不適と判断しており、根付かせることについては時間がかかる状態である。</p> <p>新たな商品が開発され続けている。止むことのない探究心が必要なのかもしれない。</p>

5. 製品への環境配慮

<p>公共工事を除く建設物の設計に際し、できるだけ環境配慮型建設材料、工法の提案を心掛けてきた。今期もその提案率は概ね50%程度は確保できていると思う。しかし、その採用実績は顧客の判断によるところが大きく、実績とならない状態が続いている。</p> <p>公共工事については、工法の変更等により使用物品に選択肢がある場合には環境配慮品を発注官庁に対し提案を続けていく努力をしていきたい。</p> <p>民間受注案件では環境製品の割高感、顧客の価格重視とを、どの様にして環境と結びつけていくのかということでもある。今後についても課題として捉え、提案を継続するよう努力したい。</p>

6. 環境活動

<p>本社外周、機材センター外周、各施工現場において、周辺環境の美化活動を実施してきた。今後も都度継続していきます。</p> <p>活動内容について、組織的な環境活動は、毎週の本社及び機材センター周辺の清掃を実施しているが、現場単位での活動では、現場及び事務所周辺の側溝清掃、草刈り、緑化・景観活動、除雪等の支援活動等多岐に渡る活動を実施しており、地域住民の方よりご好評いただいています。また、工事現場のイメージアップにもつながっており、今後も地域に根差した積極的な活動を実施していきます。</p>

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規の遵守状況

法規制等の名称	該当事項	要求事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理、排出	<ul style="list-style-type: none"> ・保管場所の基準の遵守、保守（保管施設、囲い、掲示板等） ・収集運搬許可の確認 ・収集運搬者、処理業者との契約締結 ・マニフェスト発行、管理 ・マニフェスト保管（5年間） ・産廃管理計画書・報告書の提出(毎年6月) 	遵守
資源の有効な利用の促進に関する法律	建設工事における再生資源の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・再生資源利用計画書・実施書の提出 	遵守
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律	建設特定資材廃棄物の再資源化	<ul style="list-style-type: none"> ・再生資源利用計画書・実施書の提出 	遵守
騒音規制法	指定地域内の特定建設作業に伴う騒音	<ul style="list-style-type: none"> ・特定建設作業は届出 	遵守
振動規制法	指定地域内の特定建設作業に伴う振動	<ul style="list-style-type: none"> ・特定建設作業は届出 	遵守
水質汚濁防止法	油脂を含んだ水の排出	<ul style="list-style-type: none"> ・事故により油を含んだ水が公共用水域に排出された場合は応急処置を施すと共に県知事へ届出 	遵守
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律及び政省令	特定自動車の使用制限規制	<ul style="list-style-type: none"> ・規制適合車の使用 	遵守
消防法 消防法施行令 消防法施工規則	油類の流出防止	<ul style="list-style-type: none"> ・保管場所の基準の遵守、保守（保管施設、囲い、掲示板等） 	遵守

2. 環境関連訴訟等の有無

環境関連訴訟等について、この5年発生していません。

7. 代表者の評価と見直し

当社がエコアクション21の環境活動への取組宣言を開始して7年が経過しました。同認証を取得して4年が経過し、2月には再認証登録をいたしました。

全社的に見て意識・意欲が年々維持・向上できており、その結果が本年度の結果に繋がっていると思います。

地球の温暖化には今だ、歯止めのかかかっていないのが現実です。今年は例年なら4月後半に咲き始める桜が4月上旬には満開となりました、気温の上昇、天候の急変、異常気象についても、その原因が地球の温暖化現象が要因の一つにある事は、疑いようのない事実です。当社の取組によって環境への影響は微々たるものではあると思いますが、持続可能社会の実現の為には、非常に重要な取組であるという事を再度認識し、積極的な取組を行っていく事が今後も求められています。

本年度の総評ですが、特に例年になく削減効果が認められ、来期についてもその向上が期待出来る結果となったのは、燃料関連の使用量削減についてです。例年目標を達成することが出来ていませんでしたが、本年度は目標をクリアすることが出来ました。ではその要因とはなんのでしょうか、先程も記しましたが、全社員の環境維持に対する意識、意欲の高まり向上によるもの、また長年にわたって行われ、当社社員の皆さんも多くの方が御苦労されてきた、佐久方面の中部横断道関連工事が一つの節目を迎えたことにより、長距離通勤、輸送等による燃料使用量が、下半期以降減ったことにより、今期の良好な結果になったと考えられます。来期については受注内容にもよりますが、長距離通勤、輸送が減る分、全体としての燃料関連の使用量も減ることになる事が想定されるため、今後の取組指標となる数値が得られると考えます。

本年度は全般的に良好な結果を得られましたが、来期についても同様以上の結果を得るために、社員一丸となり、積極的に環境改善対策に取り組んでいく姿勢が必要です。本年までの取組内容とその結果を見るに、既存の取組が当たり前として、自然と行える状態となってきている為、①既存方法の更なる見直し、②新規の施策の検討、③新規の取組の社会への提案、を実施していく事の出来る素養と余裕が出来てきているのではないかと思います。また、外部の様々な情報を有効に利用していくことも、情報化社会である事から有効に活用することにより可能となっています。活動の範囲についても、当社内部だけでは限定された範囲でしかありませんが、当社の協力業者の方々とも様々な取組について連携して行く事により、更に広い範囲に活動の幅を広げていく事も、今後のより積極的な取組の一環として期待している処です。

エコアクション21の認証が環境活動として国家施策の一環であり、当社の活動が未来に繋がる活動であることを再認識して、高いレベルでの向上心を持って今後も活動していきます。

平成30年6月20日

株式会社 鹿熊組

代表取締役社長 鹿熊 厚